

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉版2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ライオンズ狭山グランテラス	階数	地上11F
建設地	埼玉県狭山市入間川三丁目3444-9	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域・準防火	平均居住人員	403 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年1月25日
敷地面積	2,908 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社長谷エコーポレーション
建築面積	877 m <sup>2</sup>	確認日	2017年5月17日
延床面積	6,374 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社長谷エコーポレーション



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 地域環境や街並みとの調和を図り、省エネルギーや環境負荷の軽減を考慮しつつ、敷地内の防犯や利便性、室内の快適性に配慮した計画としている。		<b>その他</b> 電気自動車スタンド設置。
<b>Q1 室内環境</b> ・二重壁によりD <sub>r</sub> 値50を目標値として設定。 ・F☆☆☆☆を床、壁、天井、天井裏の面積の合計70%以上の面積に採用。	<b>Q2 サービス性能</b> ・住宅性能表示基準劣化対策等級3を取得。 ・各住戸に1ギガバイトクラスのブロードバンドが利用可能。 ・住居部分の天井高2.5m以上。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 建物の配置、形態、植栽を地域環境や街並みとの調和に配慮した計画としている。
<b>LR1 エネルギー</b> ・住宅性能表示基準断熱等性能等級3を取得。 ・潜熱回収型給湯器エコジョーズ、複層ガラス、共用部全てLED照明を採用。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 二重壁・二重天井を採用し資源の再利用に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 0

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS  
ライオンズ狭山グランテラス**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-				<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.1</b>	1.00				<b>3.1</b>
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音		3.0	0.50	3.3	0.50				
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能	界壁の壁厚を180mm以上とし、二重壁によりD <sub>r</sub> -50を目標値に設定	3.0	-	4.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20				
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.2</b>	0.35	-	-				<b>2.2</b>
2.1 室温制御		2.2	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.63	-	-				
2 外皮性能		1.0	0.38	-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-				
<b>3 光・視環境</b>		<b>1.8</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00				<b>3.8</b>
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.50				
1 昼光率	共用部分:0.7%、住居部分:11.6%	1.0	0.60	5.0	0.50				
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50				
1 昼光制御	カーテン及びバルコニー庇の組合せで制御	2.0	1.00	4.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御		1.0	0.25	-	-				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00				<b>3.6</b>
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を床、壁、天井、天井裏の面積の合計の70%以上の面積に採用している	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38				
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-				<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00				<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60				
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応	各住戸に1Gbitクラスのブロードバンドが利用可能	3.0	-	5.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	2.0	0.40				
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-				
3 内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30	-	-				<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす	5.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニルクロス貼耐用年数20年	4.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:SUS(C)、汚水排水:VP(B)、雑排水:VP(B)、Eは不使用	5.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.0	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>2.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり		3.0	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		断熱等性能等級4	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.92	<b>3.8</b>	0.50	-	-	<b>3.8</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.1</b>	0.60	-	-	<b>3.1</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材の構造により躯体と仕上材の分別が容易	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が1つある	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		CO2排出率:66%	<b>4.3</b>	0.33	-	-	<b>4.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要					
建物名称	ライオンズ狭山グランテラス	BEE	1.2	BEEランク	★★★

2 重点項目の評価					
ライフサイクルCO2の削減のスコア			緑の保全・創出のスコア		
4.3	+	2.6	=	6.9	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上		すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要			
<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	4.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.3
<配慮した内容を記述>			
地球温暖化への配慮:CO2排出率 66%			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
外構緑化指数:31.58			

: 入力欄